

## 各国原材料高 経営に不安感

世界的な原材料高や輸送費高騰が、景気を下押しする懸念が強まってきた。当社が七月、県内企業に実施した調査では、仕入れ価格が前年より上昇していると回答した企業の割合が大幅に増え、仕入れ価格 BSI は半年前の一・一から四五・〇まで上昇し、下期もほぼ横ばいの見通しとなった。経営上の問題に原材料高を挙げる企業も、半年前の 10%から 23%に上昇した。

原油や鋼材、銅、アルミ地金、穀物、食用油、製材、半導体などの価格が大きく上昇しており、企業間で取引するモノの価格動向を示す企業物価指数の七月の国内物価は前年比 5.6%上昇と、二〇〇八年九月以来、約十三年ぶりの伸び率となった。中米欧の景気回復による需要増、コロナ禍による生産減や労働者不足が背景にある。海上運賃も高騰している。

当社調査でも石油・化学、製材、電気機器、輸送用機器、食料品、運輸・倉庫など多くの業種で仕入れ価格上昇がみられた。一部値上げに踏み切る企業もあるが、販売価格 BSI は小幅な上昇にとどまり、先行きの不確実性が残るなか値上げに慎重な姿勢がみられる。コロナ収束の遅れて需要が息切れし、販売価格への転嫁やコスト削減が十分できなければ、今後、収益圧迫の材料となる可能性がある。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2021年9月2日